



WAJIMA
NURI



輪島塗

江戸時代前期には輪島で漆器製作の技術や流通が確立したと考えられています。

木質素地にアテ材のへらを用いた下地塗、天然漆の刷毛塗りを基本とし、大きくは木地・塗り・加飾に分類される各工程を専門の職人が手掛けます。下地塗で輪島地の粉（わじまじのこ）と呼ばれる焼成粉末化した地元産珪藻土を漆に混ぜるのが特徴です。